The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	Open Ethnography : 協働的エスノグラフィとデータ共有のためのプラットフォーム
Author(s)	森田, 敦郎; 原山, 都和丹; サンピエール, エミール 他
Citation	
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/101954
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

発表資料へのリンク

Open Ethnography

森田敦郎
原山都和丹
サンピエール・エミール
モハーチ・ゲルゲイ

大阪大学
THE UNIVERSITY OF OSAKA

OU MASTER PLAN 2027
生きがいを育む社会の創造

Open Ethnography

協働的エスノグラフィとデータ共有のためのプラットフォーム

森田敦郎、原山都和丹、サンピエール・エミール
モハーチ・ゲルゲイ（大阪大学・人間科学研究科）

目次

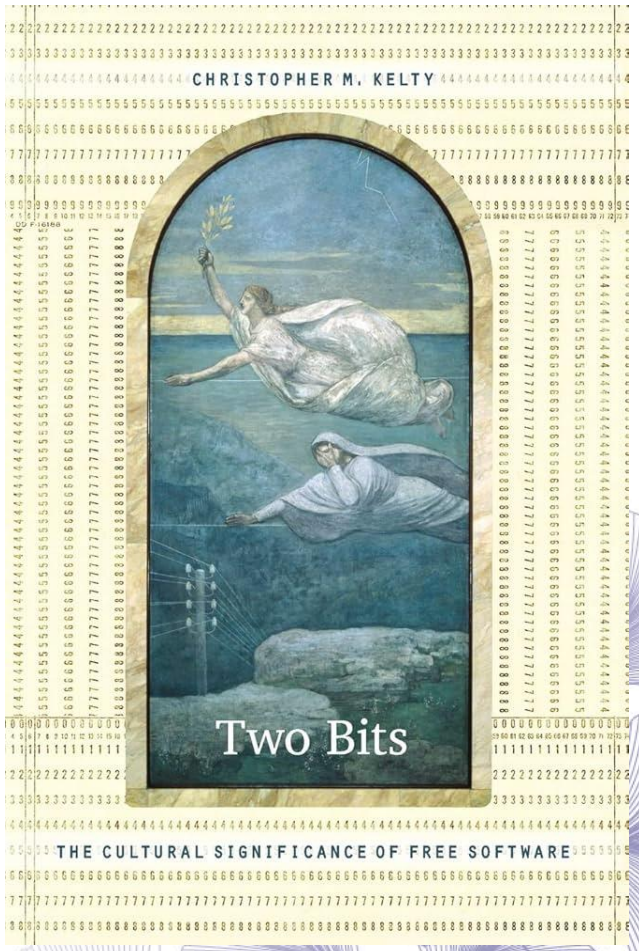
- はじめに
- 人類学とオープンソース運動
- データ実践の中心性
- Open Ethnography の紹介
- データ実践を介したコラボレーション

はじめに

- 本発表の目的
  - エスノグラフィをより協働的で開かれたものにする意義をオープンソース運動と人類学の関係に注目して論じる
  - そのためのツールとして Open Ethnography を紹介する
- なぜ、エスノグラフィとオープンソースなのか？
  - 科学の政治とテクノ社会運動と人類学の関わりの中で論じる
- データ実践の中心性
  - データの取り扱いがエスノグラフィが生み出す知識とそれを取り巻く諸関係を変える力を持つことを論じる

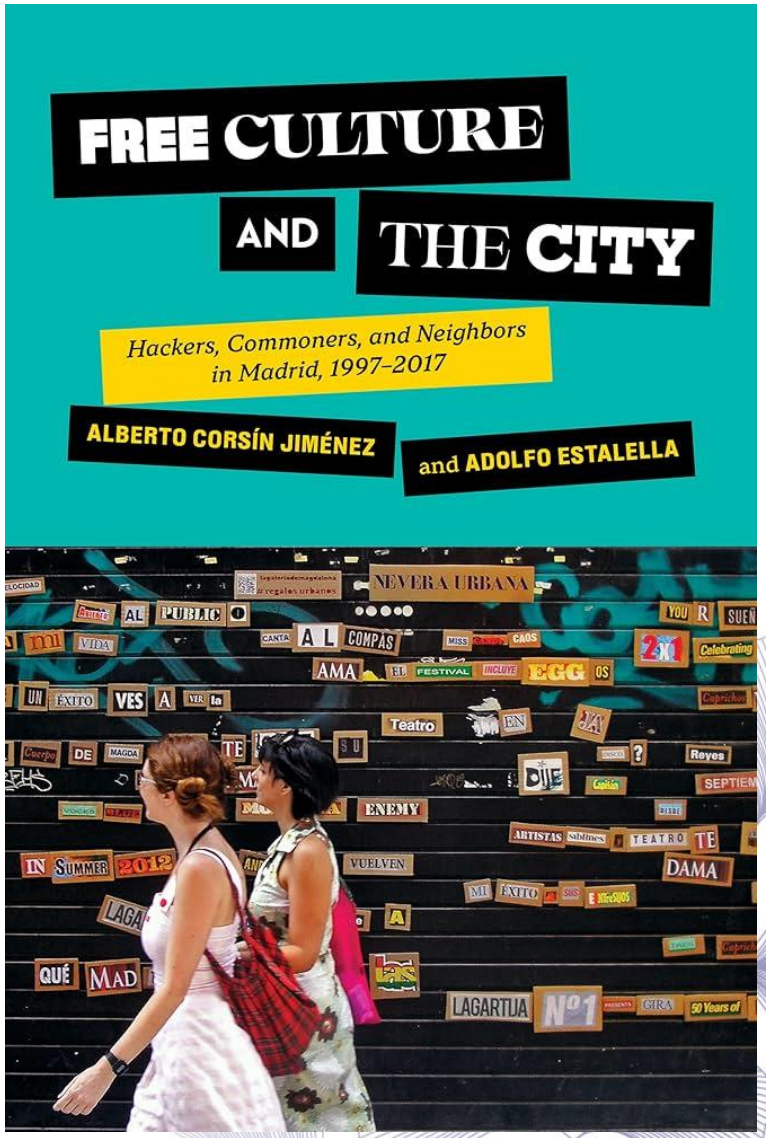
人類学とオープンソース運動

- オープンソース運動とは？
  - アマチュアがソフトウェアを共同で開発し、無償で配布・共有する運動「フリーソフトウェア」に端を発する
  - インターネットの成立の原動力
  - 贈与、互酬性など、人類学のタームを用いて自己を理解する運動でもある
- ソースを開放する
  - 単に無料にするのではなく、「そのシステムがどのように作られているのか」をユーザーが見ることができる
  - ますます進む科学技術の囲い込みに対抗する運動



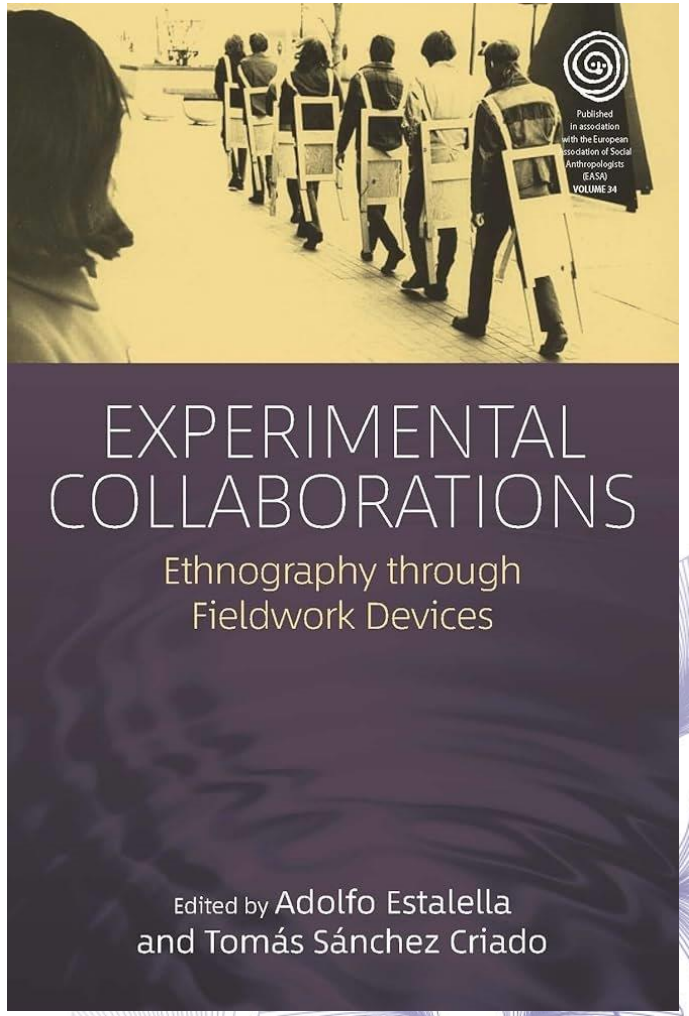
人類学とオープンソース運動

- オープンソース・ハードウェア運動の波及
  - オープンソースの原則がソフトウェア以外の対象（ハードウェアなど）にも広がる
  - メイカースペース、Fab Labなど市民が自ら「つくる」運動へ
- オルタナティヴを求める社会運動との融合
  - 脱成長、脱消費社会、squatters' movement、「ナリワイ」など（日本での関連の展開は鈴木・伊藤(2025)
- テクノロジーや知識が「どうやってできているか」をオープンにする



データ実践の中心性

- 当事者との共同探索としての人類学
  - ポスト・ライティングカルチャーの潮流、科学技術の人類学／ANT、デザイン人類学
- コラボレーションの中での重要性
  - データの作成、分析、成果の発表（論文、映像、展示、施設、人工物など）に誰が、どのような形でかかわるのか？
  - データをめぐる具体的な共同作業が、コラボレーションのあり方を大きく左右する
  - データをどう扱うかは、人類学の性質や理論的発展の方向を左右する（Max Gluckman）



データ実践の共創

Open Ethnography

大阪大学 THE UNIVERSITY OF OSAKA　OU MASTER PLAN 2027 生きがいを育む社会の創造

エスノグラフィー研究のサイクル （Spradley 1980）というデータ記録・分析・執筆のプロセスを共同作業として実践・検討する試み

- 従来の個別データ記録に代わり、**デジタルプラットフォーム**を用いる
  - GitHubというコードやファイルを共有・管理するプラットフォーム
  - 人類学者とプログラマーによる共同開発
- 民族誌研究の各段階を記録（保存）・共有できる仕組みのデザイン
- フィールド調査を行う研究者、学生、実践家などがより効率的に研究を進める環境の構築
- 「**チームエスノグラフィー**」の効果について再検討

0 プラットフォームの定義

Open Ethnographyとは？

- フィールドノートの「エントリー」（1日分の記録）を基本単位としたデータベース
- 各エントリーは多種のデータから組み合わされている
  - システム内保存されるテキストデータ
  - 外部ストレージに保存した画像・動画などのデータへのリンク
- 研究データには必要なメタデータも付与され、共同編集・共有が可能となる

1 データ保存・共有

2 コーディング・分析

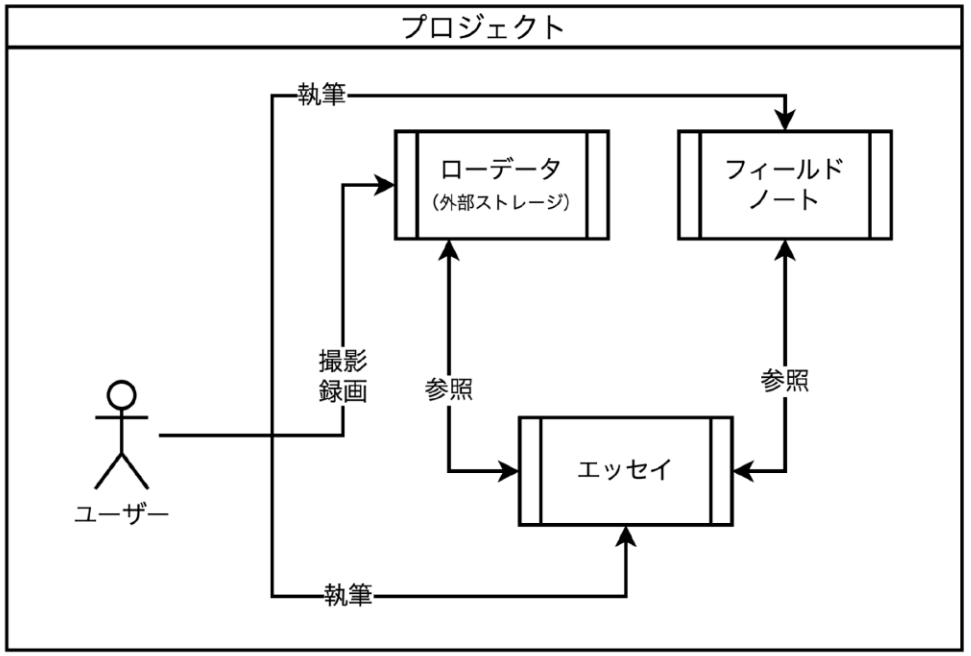
3 エコシステム化

データ実践の共創

Open Ethnography

大阪大学 THE UNIVERSITY OF OSAKA　OU MASTER PLAN 2027 生きがいを育む社会の創造

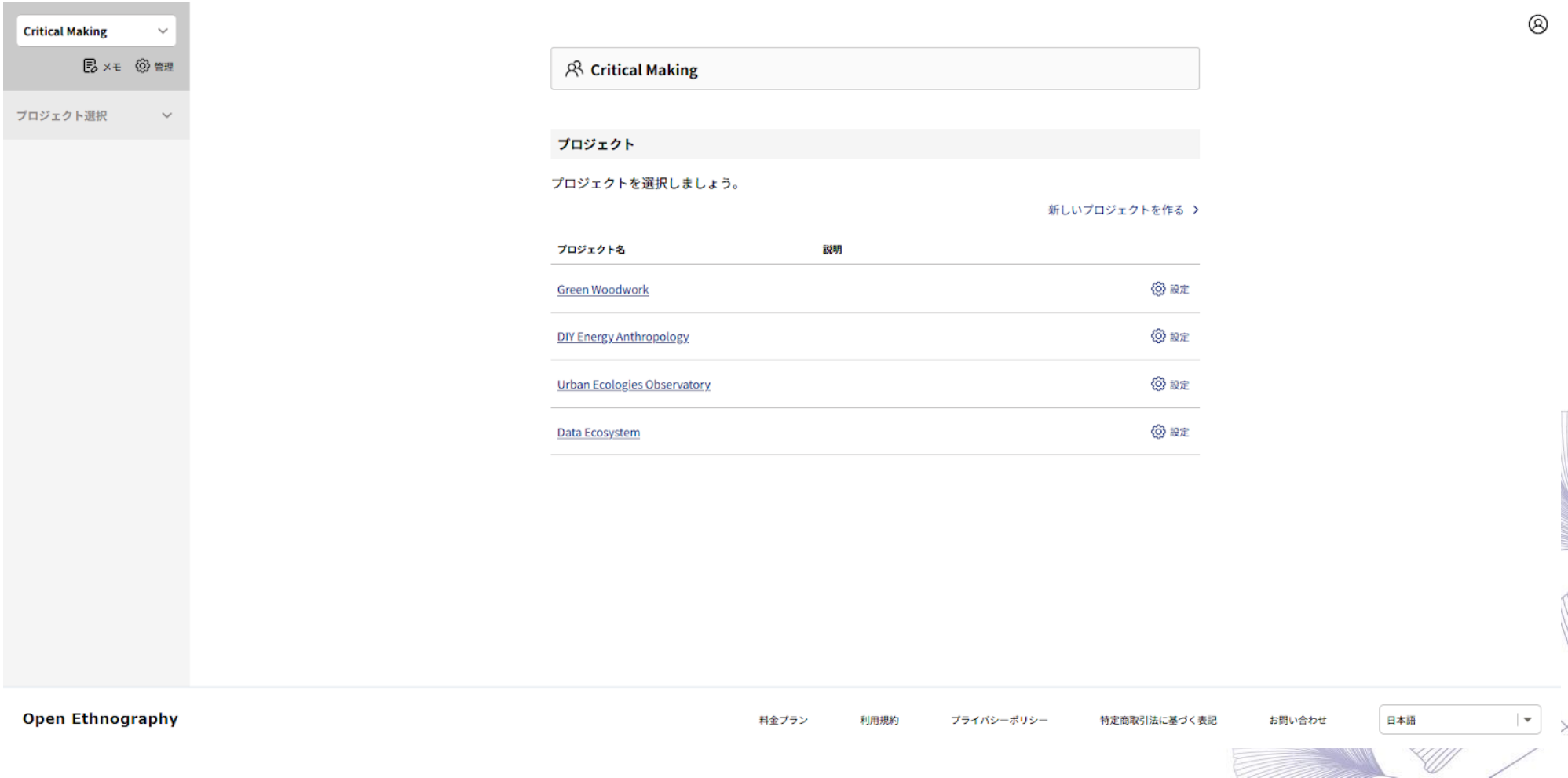
- ユーザーはシステムにログインをしてシステムを利用する
- ユーザーは《**プロジェクト**》に所属し、プロジェクト単位でデータなどを管理する
  - ①《**ローデータ**》を登録・登録解除する
  - ②《**フィールドノート**》を記録し入力する
  - ③ フィールドノートを《**コーディング**》する
    （色付きタグやコメントなどを付与）
  - ④《**エッセイ**》を執筆する（変更履歴などあり）
- エッセイを「公開」する（投稿論文など）



データ実践の実例

大阪大学 THE UNIVERSITY OF OSAKA　OU MASTER PLAN 2027 生きがいを育む社会の創造

・クリティカル・メイキングという科研プロジェクトのデータを事例として扱います



フィールドノートのアーカイブと共有

大阪大学 THE UNIVERSITY OF OSAKA　OU MASTER PLAN 2027 生きがいを育む社会の創造

・それぞれの参加者の記録をアーカイブ・共有します

外部の写真集や動画のリンクも可能

大阪大学 THE UNIVERSITY OF OSAKA

OU MASTER PLAN 2027 生きがいを育む社会の創造

ローデータの閲覧・編集

プロジェクト

DIY Energy Anthropology

タイトル

DIYエネルギー人類学アルバム20221213-20230726

URL

https://photos.app.goo.gl/gyFqF56ABkA8rBmw7

メモ

thumbnail:

保存する

登録解除する

プロジェクト

DIY Energy Anthropology

タイトル

DIYソーラー発電ワークショップ

URL

https://youtu.be/zNRm7Pr75UQ

メモ

2023/01/25　山見

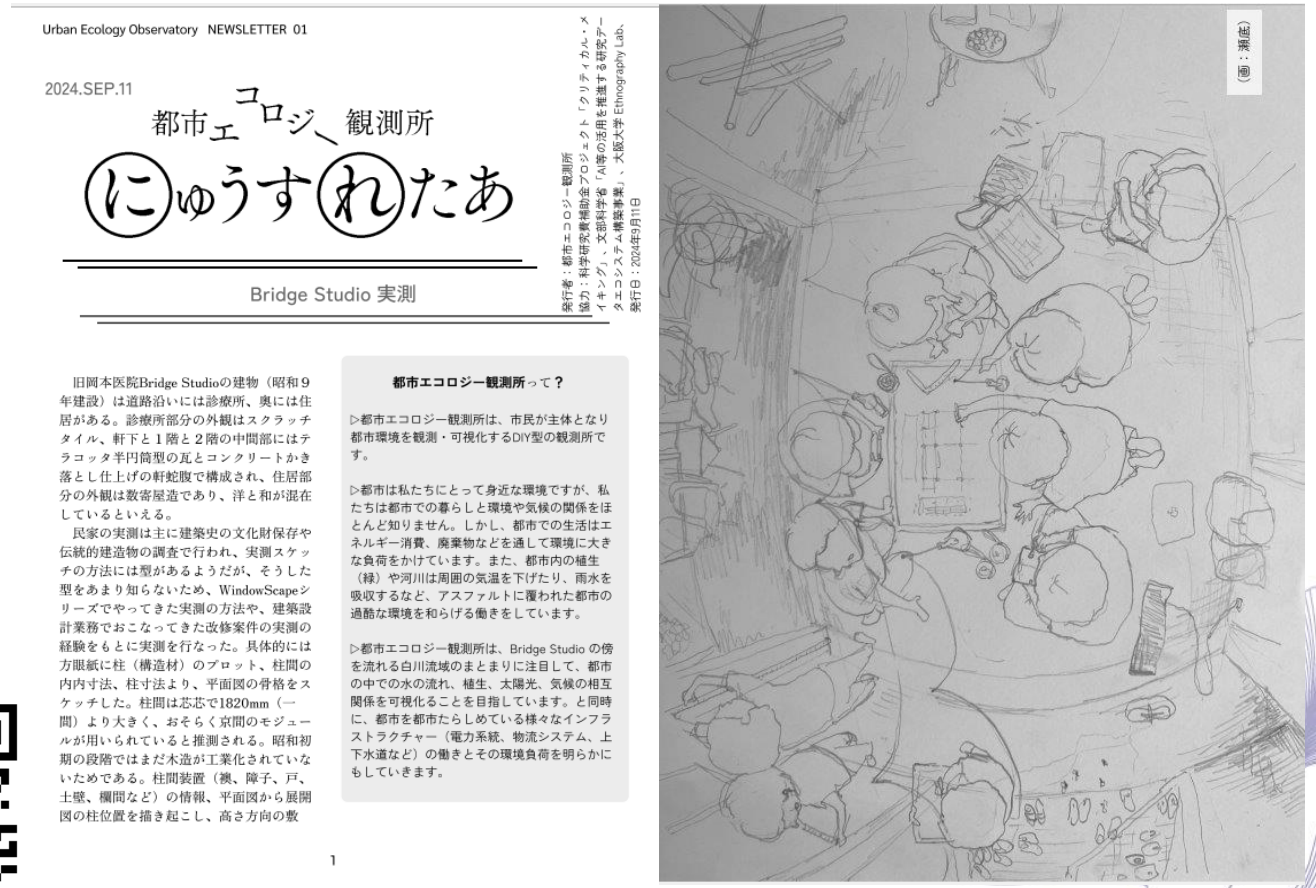
embed:

保存する

フィールドノート集としてのNewsletter

・協働ワークショップ途中にフィールドノートとローデータを共有し、編集してジーン・Newsletterとして出版します

・今までのNewsletterは大阪大学学術情報庫OUKAで公開されています



Urban Ecology Observatory NEWSLETTER 01

2024.SEP.11

都市エコロジー観測所

にゅうすれたあ

Bridge Studio 実測

発行者：都市エコロジー観測所
協力：科学研究費補助金プロジェクト「クリティカル・メイキング」、文部科学省「AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業」、大阪大学 Ethnography Lab.
発行日：2024年9月11日

旧岡本医院Bridge Studioの建物（昭和９年建設）は道路沿いには診療所、奥には住居がある。診療所部分の外観はスクラッチタイル、軒下と１階と２階の中間部にはテラコッタ半円筒型の瓦とコンクリートかき落とし仕上げの軒蛇腹で構成され、住居部分の外観は数寄屋造であり、洋と和が混在しているといえる。

民家の実測は主に建築史の文化財保存や伝統的建造物の調査で行われ、実測スケッチの方法には型があるようだが、そうした型をあまり知らないため、WindowScapeシリーズでやってきた実測の方法や、建築設計業務でおこなってきた改修案件の実測の経験をもとに実測を行なった。具体的には方眼紙に柱（構造材）のプロット、柱間の内内寸法、柱寸法より、平面図の骨格をスケッチした。柱間は芯芯で1820mm（一間）より大きく、おそらく京間のモジュールが用いられていると推測される。昭和初期の段階ではまだ木造が工業化されていないためである。柱間装置（襖、障子、戸、土壁、欄間など）の情報、平面図から展開図の柱位置を描き起こし、高さ方向の敷

都市エコロジー観測所って？

▷都市エコロジー観測所は、市民が主体となり都市環境を観測・可視化するDIY型の観測所です。

▷都市は私たちにとって身近な環境ですが、私たちは都市での暮らしと環境や気候の関係をほとんど知りません。しかし、都市での生活はエネルギー消費、廃棄物などを通して環境に大きな負荷をかけています。また、都市内の植生（緑）や河川は周囲の気温を下げたり、雨水を吸収するなど、アスファルトに覆われた都市の過酷な環境を和らげる働きをしています。

▷都市エコロジー観測所は、Bridge Studio の傍を流れる白川流域のまとまりに注目して、都市の中での水の流れ、植生、太陽光、気候の相互関係を可視化ることを目指しています。と同時に、都市を都市たらしめている様々なインフラストラクチャー（電力系統、物流システム、上下水道など）の働きとその環境負荷を明らかにもしていきます。

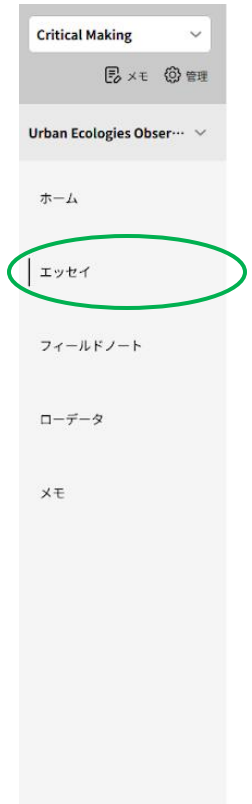
1

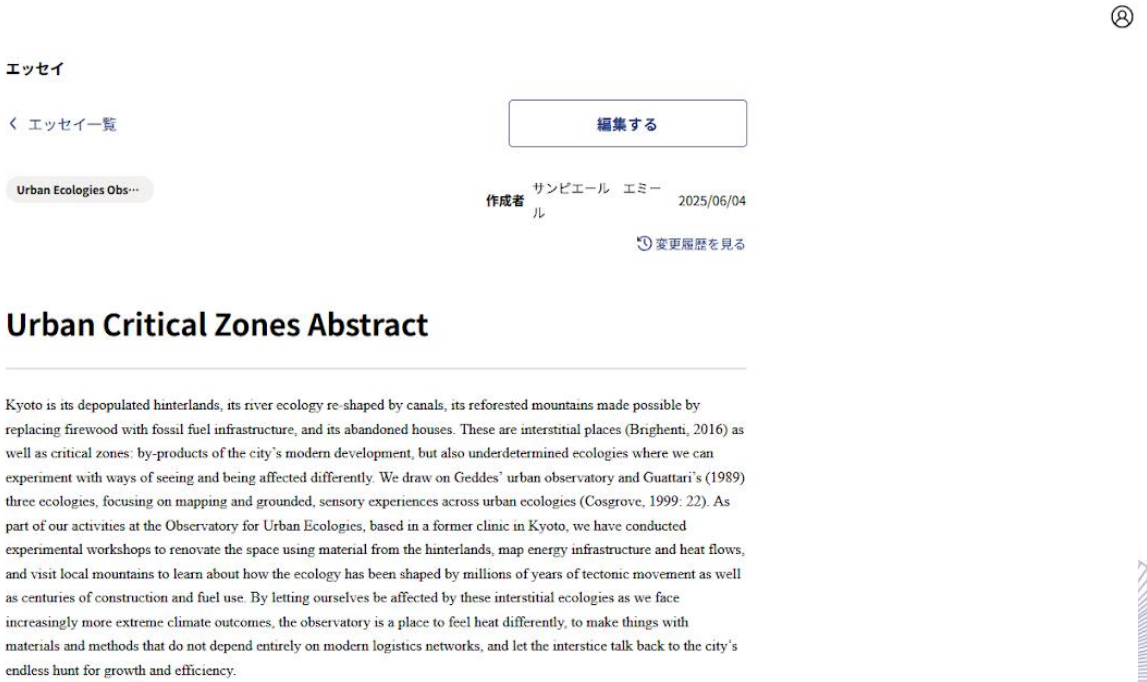
（画：清水）

共著エッセイ、協働分析も視野に

大阪大学 THE UNIVERSITY OF OSAKA　OU MASTER PLAN 2027 生きがいを育む社会の創造

・コメント、検索、タグづけ機能の追加で協働分析のたたき台と執筆ツールとしても利用しやすくなる見通しです





大阪大学
THE UNIVERSITY OF OSAKA

OU MASTER PLAN 2027
生きがいを育む社会の創造

ご清聴ありがとうございました

Open Ethnographyをご使用になりたい方は下記のメールアドレスまでご連絡ください

st.pierre.emile.hus@osaka-u.ac.jp

Open Ethnography

https://openethnography.jp/

謝辞

- 本研究は以下の助成を受けています

- 科学研究費補助金・挑戦的研究（開拓）「クリティカル・メイキング」
- AI等の活用を促進する研究データエコシステム構築事業
- 大阪大学人間科学研究科ヒューマンサイエンスプロジェクト